魅力がつなぐ地域の未来

― 夢が動き出す神保に ―

神保地区ふるさとづくり推進協議会



1. はじめに

人口約 4,900 人の神保地区には、田園や里山、立山連峰を望む風景、獅子舞や「やんさ音頭」など、受け継がれてきた自然と文化があります。そこに、人々の営みや新しい活動が重なり、さまざまなつながりの中で、神保ならではの魅力が育まれてきました。

コロナ禍では、祭りや行事が中断し、地域の人が顔を合わせる機会も失われました。そんな中で迎えた令和 4 年の神保地区誕生 80 周年。地域の歩みを振り返り、子どもから高齢者までが力を合わせて記念事業をつくったことが、神保の活動を再び動かす大きなきっかけとなりました。

人が集い、地域を知り、ともに楽しむ。そこから生まれたつながりを大切に育みながら、活動は途切れることなく次へと広がってきました。そこで過ごした時間や心に残る思い出もまた、次の世代へつないでいきたい神保の大切な財産です。

2. 活動の特徴

つながりを育む、きっかけづくり

地域とのつながりは、何気ないきっかけから始まります。行事のチラシを見て足を運ぶ。子どもの活動に付き添う。誘われて参加してみる。写真や動画を目にして地域に興味を持つ。神保地区では、そんな一つひとつの接点を大切にしています。

同時に、活動を「自分ごと」として感じてもらえるよう、関わるきっかけを丁寧につくってきました。80 周年記念事業では、小学校の全児童に「神保の好きなところ」「理想の神保」「夢」を聞き、その思いを記念楽曲「GENTLE WIND」の歌詞に生かしました。地域の地図づくり事業でも、住民自身が地域の魅力を見つめ、言葉にするところから始めています。準備の段階から多くの人が関わることで、完成を楽しみに待ち、ともにつくる喜びが生まれます。

小さな事業を重ね、公民館へ足を運ぶ機会を増やすことも大切にしてきました。「行ってみると、何か楽しいことがある」。そんな親しみが、次の参加や交流への入口になっています。

一つの活動から生まれたものは、さらに次へと生かされています。「GENTLE WIND」は、合唱、吹奏楽、ダンス、体操へと広がり、学校や保育園、地域の行事へ活動の場を広げています。Instagram「神保フォトギャラリー」も、神保をテーマにしたフォトコンテストから、地区内外の美しい写真が集うオンライン版「神保写真館」へと成長し、写真の活用はさまざまな事業へと広がっています。

神保で生まれた楽しさや喜びを大切に育てていく。その積み重ねが、新しい交流や活動を生み、地域の魅力を豊かにしています。



GENTLE WIND を聴く→



神保フォトギャラリー

活動を支える体制

神保地区ふるさとづくり推進協議会を構成する各活動団体をはじめ、事業ごとの実行委員会、自治振興会、社会福祉協議会、学校、保育園、地域の事業者などが、それぞれの役割を担いながら活動しています。神保公民館は地域活動の拠点として、人や活動をつなぐとともに、Instagram や YouTube などのデジタル媒体を主体的に運営し、その蓄積を地域の活動に生かしています。

3. 活動の概要



神保地区誕生 80 周年記念品贈呈式

80 周年から、次の神保へ

令和 4 年、神保地区は誕生 80 周年を迎えました。コロナ禍で人が集う機会が失われる中、神保地区誕生 80 周年記念事業実行委員会では、地域の歩みを振り返りながら、これからの神保について何度も話し合いを重ねました。
その中で大切にしたのが、「記録より記憶」という考え方です。何をどれだけ残したかという実績だけではなく、何度も集まって考えたこと、人を訪ねて話を聞いたこと、子どもたちと一緒につくったこと。そこに関わった一人ひとりの心に残る時間を大切にしました。

沢山の好き つなぐバトン

80 周年を象徴する言葉も、時間をかけて生まれました。地域のさまざまな声やアイデアを持ち寄り、議論を重ねてたどり着いたのが、「沢山の好き つなぐバトン」です。
地域の 80〜90 代の方々を訪ね、昔の暮らしや神保への思いを聞く。小学校の全児童には「神保の好きなところ」「理想の神保」「夢」を尋ねる。世代を越えて集まった声は、記念誌や動画、MAP など、さまざまな形になりました。
言葉やモニュメント、歌など、みんなの思いを象徴するものをつくることで、そこに関わった時間が、地域の記憶として残っていきます。



映像でたどる、神保誕生 80 周年 YouTube 公式チャンネル

二次元コードから『沢山の好き つなぐバトン』をご覧いただけます→

みんなの思いから生まれた「GENTLE WIND」

子どもたちの言葉や地域への思いから生まれた記念楽曲が、「GENTLE WIND」です。
子どもたちが歌い、地域の吹奏楽団が演奏し、さらにダンスや体操へ。学校や保育園、地域の行事などへ活動の場を広げ、80 周年を終えた今も歌い継がれています。
一つの記念事業から生まれたものが、その年だけで終わらず、次の活動へ生かされていく。80 周年は、その後の神保の活動を大きく動かす契機となりました。



80 周年から歌い継がれる「GENTLE WIND」

集う・知る・受け継ぐ

夢が動き出す「じじじマルシェ」



令和５年に始まった「じじじマルシェ」は、子どもから高齢者までが集い、出店者、地域住民、行政、大学など、それぞれの思いを持つ人たちが一緒に育ててきた場です。
出店者も「夢を叶える」という思いに共感し、準備や片付けまで一緒に。子どもたちに人気の「だがじや」は、富山市、富山大学、地域住民がマルシェでできることを話し合う中から生まれ、老人クラブや地域ボランティアに支えられています。



「だがじや」と子どもたち

ワクワクが止まらない
「じじじマルシェ」を動画で→

みんなで育てる、じじじマルシェ
じじじマルシェオリジナルビジュアル

地域を知る、受け継ぐ中から生まれる交流
― じじじＭＡＰ ―


MAP を見ながら地域を学ぶ子どもたち

「じじじ」は、「神保自慢情報」の略です。
令和４年の 80 周年記念事業で制作した「じじじ MAP」は、地域の人たちが知る神保の魅力を集めた地図です。
令和８年完成の最新版には、昨年度の小学３年生が地域学習で見つけた「神保のステキ」も加えました。MAP は地域を学ぶ「神保学」にも活用され、子どもたちが地域を知るきっかけとなっています。


最新版じじじ MAP 贈呈式

コメントを除いた白地図もオンラインで公開。地域でのオリジナル MAP づくりや学習に活用できるようにしています。

世代をつなぐ「やんさ音頭」


地域住民との練習会

地域で長く親しまれてきた「やんさ音頭」は、コロナ禍によりみんなで踊る機会が途絶えました。
そこで、民謡歌手の長岡すみ子さんや音頭教室の皆さんの協力を得て、踊り方を動画に収録し、YouTube で公開。学校や保育園の理解と協力もあり、子どもたちがやんさ音頭に触れ、踊りを覚える機会をつくってきました。
動画を見て練習した子どもたちは、学習発表会でその成果を披露。その姿に音頭教室の皆さんが感動し、文化祭での共演へとつながりました。さらに練習会を重ね、夏祭りでは子どもたちも加わった輪踊りが復活。真剣に、そして楽しそうに踊る子どもたちの姿が、再び地域の輪を広げています。


夏祭りに復活した、やんさ音頭の輪踊り



花火の感動を、みんなで

― 婦中ふるさとふれあいフェア ―

婦中ふるさとふれあいフェア実行委員会が大切にしているのは、**「地域みんなでつくる」**ことです。
40～50 代の現役世代が中心となり、一年をかけて話し合いを重ね、子どもたちや地域のためにさまざまな企画を考え、実現してきました。
子どもたちは会場を彩るランプシェードをつくり、メッセージ花火に込める言葉を考える。保育園児や地域の高校生はステージへ。それぞれが自分のできる形で、この一日をつくっています。





そして一日の最後には、音楽に合わせて花火が夜空を彩ります。準備に関わった人も、出演した人も、会場を訪れた人も、
同じ夜空を見上げ、その感動を共有します。

モノから生まれる共感

― AMAZING JINBO ―

80 周年記念事業で制作した「AMAZING JINBO」モニュメントは、神保の新しい顔として、地域の風景やさまざまな活動の中で親しまれ、活用されています。
また、同じモニュメントのある富山市四方地区との出会いから交流が始まり、互いの地域を訪ね、活動を知る関係へと発展しています。

出会いから、次の交流へ

ふれあいフェアへの出店をきっかけに、地域で働く外国人研修生との交流も始まりました。その縁は小学校へと続き、子どもたちがお互いの文化に触れる機会へと広がっています。



神保にオープンした小さなお菓子屋さん「manmaru」
神保出身の松本さんが夢をかなえたその一歩を地域でも応援し、じじじマルシェへの出店や、ふれあいフェアのプレゼント菓子へと活躍の場が広がっています。
※画像は富山市広報表紙に掲載された manmaru 店主松本さん（じじじマルシェ令和８年４月２３日開催）

5. 活動から見えてきたもの

見えてきたもの

神保地区誕生 80 周年をきっかけに再び動き始めた活動は、その後も止まることなく続いています。活動を重ねる中で、人のつながりや思い、そこで過ごした時間が、次の活動へ生かされていく神保の姿が見えてきました。それぞれの活動から生まれた楽しさや記憶の積み重ねそのものが、新しい神保の魅力になっています。

成果

① 活動が次の活動へつながる循環

80 周年をきっかけに再び動き始めた人や活動のつながりは、その後に始まったマルシェや、MAP の更新、伝統文化の継承などへと広がっています。また、80 周年以前に始まった音楽花火を含め、地域のさまざまな活動の中で生まれたものが、次へと生かされ続けています。

② 子どもたちの学びと地域がつながる

学校で地域を知り、見つけた魅力や思いが、MAP や歌、ランプシェード、メッセージ花火など地域の活動に生かされています。地域での経験が、子どもたちにとって神保を知り、親しむ機会にもなっています。

③ 地域に関わる人と交流の広がり

子どもから高齢者まで幅広い世代に加え、学校、企業、大学、行政、地区外の人々など、多様な人がそれぞれの形で地域に関わる機会が生まれています。

④ デジタルに残す、地域の記憶

写真や映像は、情報を届けるだけでなく、地域で過ごした時間や人々の姿を残し、いつでも振り返ることのできる「地域の記憶の置き場所」になっています。

活動の拠点である神保公民館が、ホームページや SNS、YouTube 等を主体的に運営し、ふるさとづくり推進協議会をはじめとする地域活動の記録・発信に活用しています。

写真や映像を、地域の記憶の置き場所に。
全国公民館インターネット活用コンクール 2023 銀賞

6. これから

これまで神保で育ってきた人や活動がつながり、そこから生まれたものを次へ生かしていく循環を、これからも大切にしていきます。

一つの事業が、一人の思いが、点が線になり面や形になって地域を彩り、元気にする。そんな神保らしい地域づくりの土壌をこれからも育てていきます。

そして、その中で、子どもたちが神保でたくさんの楽しい記憶をつくって大人になれる地域を目指します。



千里駅にて
神保フォトギャラリー2024 大賞受賞作品